

会津地域自治体広域連携シンポジウム「7人のマスコミが見た会津」

日時: 令和4年 11 月 3 日 (木・祝) 13:30~16:20

場所: 会津大学 講堂

主催者挨拶 福島県会津地方振興局長 高野武彦

皆さんこんにちは、会津地方振興局長の高野でございます。本日はどうぞよろしく願
いいたします。

地域の7社のマスコミの皆さん、この企画を持ち込んだ時に、快く引き受けてくださ
り、本日こうして参加いただき本当にありがとうございます。会場の皆さん、YouTube で
御覧になっている皆さん、本当に御参加いただきましてありがとうございます。

このシンポジウムは、会津地域 13 市町村と県の出先機関との広域連携で事業を展開して
いる。その一環として、本日のシンポジウムを行っている。私たち会津地域 13 市町村と、
会津地方振興局はじめ、県の出先機関は「会津地域に住む皆さんが、誇りを持ってこの会
津の地域で人生 100 年時代を豊かにそして健康で笑顔で自分らしく生き生きと暮らしてい
ていけるような、そんな会津地域にしたい」と願っている。そのために、大切なことが 2
つある。

1つは、人生においては、誰もが自分自身が「主人公」だということだ。豊かな方・そ
うでない方、健康な方・ちょっと病気がちな方、障がいがある方・ない方、若い方・お子
さん・大人・高齢者、どんな方でも自分の人生は、自分が「主人公」。

そして2つ目は、「誇り」である。自分の人生を歩むのに、しっかりと自分に「誇り」
を持っていただきたい。そして、この会津地域で暮らし生活していくこと、つまり地域に
「誇り」を持っていただきたい。「誇り」を持つことで、自分を大切にしよう、この「誇
り」をつないでいこう、育もう、そういう気持ちが起きてくる。そうすると、今度はそれ
を磨いていこう、挑戦しようという気持ちが起きてくる。その挑戦を続けることが自分を
成長させ、地域を活性化していくところにつながってくる。地域を活性化し、地域の「誇
り」を育むために、会津地域のマスコミの皆さんから、会津の魅力について語っていただ
こうと思う。「会津ってこんなところがいいんだよ」、「見方を変えると、こういうところ
が素晴らしいんだよ」マスコミの皆さんからのエールで、私たちの背中をポンと押して
いただければありがたいと思っている。

【第1部】「7人のマスコミが語る会津の魅力」プレゼンテーション

プレゼンター

福島民報社	会津若松支社長	紺野 正人 氏
福島民友新聞社	若松支社長	小池 正博 氏
株式会社ラジオ福島	会津支社長	大内 雅人 氏
福島テレビ株式会社	会津若松支社長	鈴木 孝雄 氏
株式会社福島中央テレビ	会津支社長	熊田 智一 氏
株式会社福島放送	報道部記者	大槻 忍 氏
テレビユー福島	会津若松支社長	八代 光弘 氏

進行役

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

まず第1部、福島民報さんから始めたいと思う。その後、福島民友さん、ラジオ福島さん、福島テレビさん、福島中央テレビさん、福島放送さん、そしてテレビユー福島さん。馴染み深い地域のマスコミの皆さんから一人ずつプレゼンいただきたい。その後休憩を挟み、大変僭越だが、市町村の皆さんの代表として、私からマスコミの皆さんに第1部のプレゼン内容について、質問をしながらこの議論を深めていきたいと思う。「会津って素晴らしいな」、「こんな魅力があるんだな」、ということをして今日は会場の皆さん、そしてYouTubeを御覧の皆さんと一緒に考えていく楽しい時間にしたいと思う。

では早速第1部を始めたいと思う。福島民報 紺野支社長さんよろしく申し上げます。

皆様こんにちは、ただいま御紹介いただいた福島民報社 会津若松支社長の紺野正人と申します。

今日は、「会津はひとつ」ということで、私もTシャツを着て参加しました。どうぞよろしく願いいたします。

今日のテーマは、会津の魅力だが、会津の魅力と一言で言ってもたくさんあるかと思う。私の方からは、最近注目している新たな資源、魅力になるであろう資源一つに絞って御紹介させていただきたいと思う。

それは何かと言うと、奥会津は星空観察に適した、とっておきの地域だということだ。

これは、私が勝手に言っているわけではなく、言っているのは渡部潤一さん、国立天文台上席教授、会津若松出身の著名な先生である。最初にお断りをさせていただきたいと思うが、実は福島民報のジュニア新聞で渡部潤一先生の「宇宙散歩」という連載をしているが、国の指導者というか、スターウォーズの映画に出てきそうな風貌だが、著名な天文学者である。渡部潤一先生は、昨年11月の論説で紹介したとおり、昨年の会津ユネスコ協会設立40周年記念講演会で、衛星写真などをもとに、柳津、三島、金山、昭和、只見、南会津、檜枝岐の奥会津7町村は、光の害にさらされていない国内で希少な天文観測の場所であるとおっしゃった。私も別の講演会でこの衛星写真を見せていただいたが、一目瞭然で、この地域は本当に真っ暗で、星空観察に適した場所に間違いないと確信した。

今年から三島町の美坂高原で「日本一の星空事業」がスタートした。サポート事業を活用し、今年から3か年の計画である。目的は、夜空に影響を与える光の少なさから国内で有数の天文観測地として潜在的な資源と注目される美坂高原を掘り起こし、今後の観光資源として活かしていこうというものである。これだけすばらしい観測地なのだから、これで誘客していこうという取組になる。具体的には、8月15日と10月1日に天体観測会を実施し、それに合わせて天体観測ツアーや地場産品のマルシェも開催した。これがうちの新聞に載った天体観測会の募集記事である。「星降る夜 美坂で眺めて」我ながら、うちの記者、いい見出しつけたなと思っている。渡部潤一先生を講師に招き宇宙に関する講演会を行い、キャンプ場開設、そして観測会を行った。この時の記事だが、渡部潤一先生から、「本県には天の川が見えるような暗い星空がある。これは自慢して良いこと、福島の星空を守ってほしい。」と呼びかけがあった。専門家がおっしゃっているので、大変興味

深い話で、ぜひ皆さんも先生の講演を聞くような機会があれば、聞いてみていただきたいと思う。

10月1日の星空観察会だが、この時は、観察会に合わせてモニターツアーも開催した。ツアーには十数名が参加し、三島町内で農産物の収穫体験をした後、星空を観察し、柳津町に宿泊し、翌日は渡し舟を体験するというツアーだった。このイベントには私も参加してきたので、詳しく説明して参りたい。10月1日は、只見線全線再開通の日で、皆さんも多分記憶にあるかと思うが、大変天気が良く、家族連れが大勢いらっしやっていた。高原マルシェということで、会津地鶏の焼き鳥やいろいろなお店が並び、大分賑わった。只見線の全線再開通と同日だったので、出店数が少なかったのがちょっと残念だったが、来年はさらに出店が期待されるのかなと思う。

ヨガ体験もし、（美坂高原は）広いので、閑散として見えるが、こっちの方にもお客さんがいる。芝生の上でのヨガ体験、皆さん大変気持ちよさそうだった。

夜になると、渡部潤一先生の講演会ということで、「美しい夜空の会津で『星空浴』のすすめ」という演題で講演していただいた。これが、講演会の時の様子だが、大勢の方にお集まりいただいた。星空を観察する上で、美坂高原の何がいいかと言うと、月明かりがあるとなかなか観察しにくいのが、月が山の稜線でちょうど隠れるところがいい。明かりを落とすと本当に真っ暗で、もうこの時点で既に星空が見えるかと思うが、真っ暗にすると来場者から「わあー」と歓声が上がリ、本当に「星空浴」ができる環境である。来年もやるので、ぜひ皆さんも体験していただければと思う。当日の新聞記事だが、「星空浴」の魅力などを伝えさせていただいた。

「国際ダークスカイ協会」という怪しそうな団体があるが、至極真っ当な団体である。光害に対する取組みで先導的な役割を担っている組織であり、日本には東京支部があり、過剰照明が氾濫している国内において、光害を抑え、省エネに配慮した良好な光環境の形成を目指し、様々な分野の人が協力しているという団体である。この団体には「星空保護区認定制度」というものがあり、これまで国内で「西表石垣国立公園」と「神津島」と「美星町」が認定されており、星空観光アストロツーリズムといったツーリズムが盛んに行われ観光誘客に役立っているそうだ。三島町さんでも、認定を受けるべく現在取組んでいるということなので、私も非常に楽しみにしている。

最後のまとめになるが、柳津、三島、金山、昭和、只見、南会津、檜枝岐、奥会津7町村には、光害に晒されていない国内での希少な環境が残る、まさに天然のプラネタリウム

である。観光資源として生かす価値は十分にあり、美坂高原を起点に、「星空浴」を奥会津の売りにできないかと提案しているところである。美しい星空を守るということは、地域の「誇り」にもつながると確信している。会津地域の強みとしては、会津若松出身の渡部潤一先生がいらっしゃることで、渡部先生の力を借りてなんとか盛り上げていきたいと思う。

また、県内には、色々な天文の施設があるが、こんなにある都道府県はない、と渡部潤一先生もおっしゃっていた。先日は「郡山市ふれあい科学館」の名誉館長にも就任されたので、渡部先生の力を借りながら、ぜひ、会津の極上の星空を実現してほしいと願っている。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

「会津はひとつ」のTシャツも着ていただき、本当にありがとうございます。

続きまして、福島民友新聞社の小池若松支社長さん、どうぞよろしく申し上げます。

福島民友新聞社 若松支社長 小池 正博氏

皆さんこんにちは。マスクを外して人前で喋るのは何年ぶりなのかなということで、非常に緊張している。去年 若松に来て2年目になる。出身は福島市。今回このシンポジウムの話を高野局長からいただいた時、非常に悩んだ。何故かというと、私は福島市出身で、まだ会津2年目であり、そういった自分が会津地域の魅力を語れるのか、お前何言っていると言われるような気がした。少々悩んだところもあったが、今日は、そんな中で、一部しか紹介できないと思うが、自分なりに魅力を感じたところをお話したいと思う。

まず最初から話が出ている只見線である。御承知のとおり、全線再開通から1か月が経ったわけだが、ものすごい反響がある。皆さん想像していた以上の人に来ており、今日増便されたと聞いた。私も只見線に2回ほど乗ったことがある。一度は雪降る冬だった。もう大分前になるが、癒やしを求め、温泉目当てに只見町に向かった。その時は乗車している人はまばらで、雪景色と雄大な只見川と山並みを見ながら、癒された記憶がある。2回目は、また行きたいと思って、2016年春に乗車したが、その時はもう状況が一変していた。台湾の方々だと思うが、ものすごい乗客の数で、若松から只見まで座れなかった。車内は、台湾の言葉だったか、賑やかで、最初に乗った只見線と全く雰囲気が変わっていた。こちらは全線開通の時の10月2日付けの新聞だが、民友新聞では、不通区間だった駅を全

て取材し、地元の方々が歓迎ムードで迎えたことを紹介した。初日には一部トラブルがあったものの、列車に乗っていたうちの記者も、苦情めいたものは全く無かったと言っていた。

話題は変わるが、日本酒、会津というと日本酒であり、新酒鑑評会で福島県は金賞日本一9連覇を果たし、その中に会津の銘柄8品種が選ばれた。素晴らしいと思う。日本酒というと、おつまみ、馬刺しである。この馬刺しと日本酒が大好きで、馬刺しに辛味噌をつけて日本酒を一緒にいただくのが、素晴らしいと思っている。

それから「ソースカツ丼」、柳津のソースカツ丼などいろいろあるが、昨年、中小企業家同友会さんと喜多方の「おくや」さんがコラボして「ピーナツソースカツ丼」という商品を開発した。

次は桜と鶴ヶ城である。私がこちらに引っ越してきた時、お城の見えるところに住んでいたの、毎朝窓を開けてお城を見ていた。シンボリックな感じで、会津は素晴らしいなど、ありがたさを感じていた。桜の開花シーズンになると散歩にもよく行った。今年撮影したものだが、左は夜桜、素晴らしいと思う。10月10日に、この鶴ヶ城の本丸で、「会津音楽村」というイベントを初めて開催した。ちょうど鶴ヶ城がライトアップされているところで、国内の有名なジャズの方や地元若松の中学生・高校生の方々が演奏を披露した。そのイベントで14代松平保久様が、エレキギターで2曲ほど披露してくださった。演奏力が高くてびっくりした。音楽と鶴ヶ城というのは、とてもいい雰囲気であり、この鶴ヶ城を使って、イベントがどんどん展開できれば良いと思っている。

今日はマスコミ7人ということで、男ばかりなので、ちょっとパツと雰囲気を変えてみた。「会津まつり」で3年ぶりに藩公行列が行われた。ちょっと小雨は降っていたが、私も見物に行った。ちょうど綾瀬はるかさんがこのように手を振ってくれて、別に私に手を振ったわけではないが、この写真が気に入っている。

福島県には多くの温泉があるが、特に会津地方にはたくさんの秘湯名湯がある。若松は、市街地から車で5分ほど行けば温泉に入れる、東山温泉がある。三島町の早戸温泉、私も非常に気に入っており、湯治棟リニューアル後、2度ほどここに泊まりに行っている。温泉を使った塩ラーメンもあり、非常に面白いと思う。

民友新聞の事業は、なぜか会津が多い。郡山やいわきもあるが、なぜか会津の事業が良い。考えてみたが、素晴らしい自然環境や、歴史文化がある会津で、イベントをやれば、より多くの人に知ってもらえるから、昔から事業が多いのかなと思っている。

柳津町のウォーキング大会だが、「福満虚空蔵尊」や、「あわまんじゅう」のお土産、そういったものを目当てに多くのウォーキング参加者にお集まりいただいた。この秋に湯川村でも「新米ウォーク」を行った。たくさんの方々に紹介をしていきたいと思っている。

今度はトライアスロン事業だが、こちらは猪苗代湖天神浜を泳ぎ、自転車、バイクに乗り換えて会津磐梯山の麓を会津若松市に向かって磐梯町を通過し、会津若松に入り、ここ会津大がランの会場になっている。交通事情が許さないということで実現していないが、当初計画ではランのゴールは鶴ヶ城にしたいと思っていた。広域な事業により、それぞれの地域の魅力を発信できたと思う。

また 歴史文化に関しては、日新館を使用し「親子武士道塾」という事業を行っている。ここ最近では、コロナで中止しているが、親子で参加していただき、会津の武士道精神を通し、弓道や論語の素読を体験してもらっている。会津の教育文化の発祥の地を使って行うイベントであり、これも素晴らしいイベントとなっている。人材育成とちょっとおこがましいタイトルになっているが、素晴らしいものがこの会津にはたくさんある。じゃあそれを誰がどうやって伝えていくかということが、課題なのかなと思っている。

今年、県のサポート事業の御協力をいただき、博物館の新選組展に併せ、ツアーガイドを育成する事業を同時開催した。ツアーガイドになりたいという方は当然だが、ツアー参加者の方々の中にもガイドに興味を持ってくれる方がいた。このツアーガイド養成事業を継続していけば、ツアーガイドが増え、新選組展以外にも、いろいろな分野でガイドを養成することができ、会津の魅力発信ができるのではないかなと思っている。

2016年4月から2021年4月まで、民友の会津版で掲載した「会津を語る」という連載で100名の方を御紹介させていただいた。会津に尽力されている方々を今後も取り上げていきたいと思っている。

最後になるが、会津の魅力には豊かな自然と風景、歴史、伝統文化、人などがあるが、やはり大事なものは人だと思っている。

自分もこの会津を離れる時、その三泣きを体験して福島に戻りたいと思っている。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

まず、新聞社からプレゼンいただいた。続いて、ラジオの部門に移ってまいりたいと思う。それではラジオ福島 大内支社長さん、よろしくお願いします。

株式会社ラジオ福島 会津支社長 大内 雅人 氏

それではラジオ福島からプレゼンをさせていただきます。私はラジオ福島の大内雅人です。どうぞよろしくお願いします。

まず、ラジオ福島について、ちょっとお話しさせていただきたい。当社は、来年70周年を迎える会社である。テレビ局さんとか、新聞社さんみたいに映像がないので、言葉で紹介させていただきたい。ラジオ福島はラジオの単位局である。お隣新潟のBSN新潟放送は兼営局と言ってラジオ局とテレビ局を同じ会社でやっている。また、宮城県の東北放送もラジオ局とテレビ局を両方やっている兼営局である。ラジオ福島は、単位局ということで、ラジオに特化し福島に寄り添った情報を流すのを使命とし、特に震災の後から福島ネタを重要に扱っている。

ラジオ福島は県内に4支社ある。福島、郡山、会津支社といわき支社と4つあるが、70周年の歴史を持つ当社としても、おそらくその4支社コンプリートしたのは、私だけだと思う。道路とか、美味しいお店、楽しい場所などは、薄っぺらいがだいたいわかっている。

出身は福島なので、福島だとフルーツライン、その名を冠する道路があるとおり、さくらんぼ、なし、もも、りんごとでも美味しい。車で少し動けば、飯坂温泉や土湯温泉があり、とてもいいところだ。私は体のために水泳をやるが、運動公園があり、各地に温水プールがたくさんある。会津に来てプールに行こうと思っても河東しかない。ちょっとそこは寂しいなと思いつつも、福島の良いところだったな、と今は思っている。

その後、私はいわきに転勤になったが、いわきでは子どもが小さかったこともあり、なんと言っても海。震災前だったのでお魚がとても美味しかったという印象がある。子供を遊ばせるのに、「常磐ハワイアンセンター」や「アクアマリンふくしま」など、アトラクションの場として、家族連れにはいいところだなと思う。さらに、今はイオンもできて、1日遊べるところになったと思っている。

今度は郡山に転勤になり、郡山は、都会と自然の融合というか、郡山あるあるで、常にお風呂セットを持っているというのがある。街中のいたるところに温泉が湧き、温泉施設があちらこちらにあるので、特に女性はこのお風呂セットを車に積んで動いているという話を聞いたことがある。

そして会津だが、私は2020年4月にこの会津に来て、2年7か月経つ。これは、30年仕事をしてきた、御褒美だと正直思っている。なんで会津がいいのかという、そのところをラジオ福島風に、真面目に音にしてきた。私、先ほどの小池さんが言ったとおり、2年7カ月しか会津にいないので、多くは語れないが、私が過ごした2年7カ月ということで音にしてきたので、聞いていただきたい。

(ファンファーレ)

お待たせいたしました。今年からG1（ジーワン）に格上げとなりました「ラジオ福島 会津支社長杯 酔いどれステーキ」、発走が近付いてまいりました。人の話を聞かないところから付いた社内コンペの馬名が「ウワノソアラ」、鞍上はもちろん、酒好き大内です。各馬のゲート入りが終わりました態勢が整いました。

社長室のドアが開いてスタートが切られました。2020年3月13日会津支社へ転勤命令、「ウワノソアラ」と鞍上大内も綺麗なスタートを切りました。あっとここで、単身赴任のランプが早くも点灯、鞍上に全ての舵がのしかかって1コーナーカーブに入りました。ここで新型コロナが接近、初めて挨拶する方すべてマスク着用、なかなか顔が見られず試練のコーナーワークが求められます。目と髪型と声で判断する特殊な能力を身につけ、「ウワノソアラ」と鞍上大内、なんとか2コーナーに入りました。現在、4つの支社をコンプリートしたジョッキー大内、大町交差点を筆頭に、交差点や一方通行の複雑さは県内屈指と言われる会津の道を覚えるのに大変苦労、位置取りが少し後ろに下がってしまった。しかもなんだ、この雪は12月後半から3月まで、毎日車の雪下ろし。ただ、五十肩が治ったというから、まさに人間万事塞翁が馬、さあ2年目のバックストレッチはゆったりとした流れに落ち着きます。ただ鞍上大内、「一人旨いもの祭り」を毎日開催、ラーメンはなんと百食達成、日本酒、馬刺し、ああなんていいところに来たんだろう、このまま会津にいたいなと考え出したら、ここでなんと「お座トロ展望列車（会津鉄道 展望席+お座敷席+トロッコ席）」が並んできた。鞍上大内、ビールと地酒を持って七日町駅から飛び乗りました。直後にまず1本、そして風を感じながら2本目に突入、あっと早くも只見川を見下ろしながら3本目に入ったぞ、最高だ。昼間からどんどん飲み最高の気分。あっと、

スタンドにいるかみさんは、完全に呆れております。レースはここでなんとなく日常が戻りつつある34コーナー勝負どころに入りました。イベントも増えて、市町村の催しにも積極的に参加、それぞれ宿泊先の温泉は最高の気分、只見川を見下ろしながら露天風呂、炭酸しゅわしゅわのお湯に感動しすっかり会津の虜になって、さあ最終コーナーを回って直線コースに向きました。

先頭は天然温泉、直後に地酒と馬刺し、喜多方ラーメンの壮絶な叩き合い。残り100、おっとここで、外からソースカツ丼がムチを振って猛然と追い込んできた。只見線も内から来ている。ゴール前大混戦。内で粘った天然温泉、今、会津のいいとこ首の上げ下げ6頭並んだ、さあ勝負はどうでしょう。わかりません。「ウワノソアラ」と大内はどこだ。なんと、4コーナーを回ったところで酒盛りを始めております。周りの様子はお構いなし、写真判定の結果、並びに「ウワノソアラ」と大内の結果は確定までしばらくお待ちください。残念ながら夏の福島をお聞きの方はここまでとなります。「酔いどれステーキ」の結果はホームページを探しても全く載っておりませんのでご了承ください。ここまでは夏の福島酔いどれアナウンサー深野健司がお伝えいたしました。

ありがとうございました。私の2年7か月をまとめさせていただいた。私が出した原稿と違って加飾が随分あった。残りどれだけ会津にいれるかわからないが、しっかり楽しんで引退してからも会津で楽しみたいと思う。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

大変意表を突かれた演出で、とても楽しかった。それでは今度はテレビ部門に移ってまわりたい。それでは福島テレビの鈴木支社長さん、よろしくお願いします。

福島テレビ株式会社 会津若松支社長 鈴木 孝雄 氏

福島テレビ会津若松支社長の鈴木と申します。私も現職に就いて2年4ヵ月ほどであり、先ほどの大内支社長のように、まだまだだが、実は、私は出身が会津若松市であり、高校卒業まで若松で過ごしていた。就職後も20代の頃に3年間会津で勤務し、さらにまた赴任して2年4ヵ月ほど経った。地元ということも踏まえながら、会津の魅力をお話ししていきたい。

会津の魅力というと、歴史や文化、自然、人と色々あるが、マスメディア、Web、SNSを通し、県内、日本、いや世界の皆さんに簡単に知ってもらうことができるようになって

た。しかし、会津の魅力を、認知してもらうこと、これは手段であって、決して目的ではない。知ってもらって満足ではない。そこから何かアクションを起こしてほしい。それが目的ではないかと思っている。目的とは、観光で実際に来て、いろいろと体験してもらうこと。

会津に行きたいという時に、どうやって会津に行けばいいのかと思われる方が多い。会津は、決して地理的に便利ではない。それでも昔から物流の流れや生活の変化に合わせ、交通手段も発展してきた。江戸時代は「会津五街道」が、参勤交代、物流や日光東照宮への巡礼、近隣諸藩との往来で街道が発展していった。その後、鉄道網が発展し、磐越西線、只見線、会津鉄道などが整備され、首都圏と近隣都市とのアクセスが向上し、多くの人や物を一度に大量に輸送することができるようになっていった。その後、自動車の利用が一般化し、バスによる団体旅行、近年は家族やグループ単位での旅行が主流になってきている。会津での主要幹線、磐越自動車道や会津縦貫北道路などが整備されてきた。生活や環境に欠かすことのできない会津地方の交通手段について触れたところで、10月のニュースを御覧いただきたい。

－V T R－

「JRの職員や多くのファンが見送る中、只見駅に向かいます。沿線に駆けつけた多くの人に見守られながら、列車は金山町の会津川口駅に。懐かしさと嬉しさを胸にシャッターを切りました。列車は只見川沿いを走りながら、復旧した鉄橋を渡っていきます。」

2011年の新潟・福島豪雨から11年ぶりに、10月1日只見線全線再開通となった。只見線は移動手段・交通手段という意味合いだけでなく、春夏秋冬の景色を楽しむ観光路線という存在意義を見出している路線ではないかと思っている。今、盛り上がっているが、ぜひ継続的に5年10年と応援していきたいと思っている。そして交通に関するニュースをもう2つほど御覧いただきたい。

－V T R－

「今朝、通行止めが解除されたのは喜多方市と山形県米沢市を結ぶ国道121号です。この国道は8月3日からの大雨で道路が崩落し、県境をまたぐ16.5kmの区間が全面通行止めとなっていました。一方、当面片側通行で今後全面普及に向けて作業が進められます。」

「この大雨によってJR磐越西線の鉄橋が崩落しました。喜多方市の現場では今日も作業が進められていました。喜多方駅と山都駅の区間で運転の見合わせが現在も続いていて、

ＪＲ東日本は、来年春の作業完了を目指していますが、まだこの運転再開の時期は未定となっております。」

今年８月の豪雨によって被害を受けた二つの交通手段、冒頭の 121 号の通行止め解除という明るいニュースと、早期の復旧が望まれる磐越西線の喜多方・山都間の崩落した鉄橋についてのニュースである。両方とも、景色を楽しむ路線でもあり、各観光地をつなぐ重要なルートでもある。隣接する新潟・山形からの重要なアクセスルートともなっている。１日も早く完全復旧して、多くの観光客を呼び寄せていただきたいと思っている。

会津の魅力、来ていただいた方が必ず楽しみにしているのが食ではないかと思う。会津にはバラエティ豊かな食がある。食材から、加工品、料理に至るまで、ざっと書き出してみたら、書き切れないほどある。その会津の食について 10 月に放送されたニュースをまとめたので、御覧いただきたい。

－V T R－

「およそ 40 分かけてじっくりと焼かれた丸焼きは、３種類。伊達鶏、会津地鶏、川俣シャモの福島三大ブランド。シンプルに丸焼きで食べ比べることで、それぞれの特徴などを知ってもらおうと、今日初めて試食会が開かれました。今後は、新たな商品の販売などを通じて、全国にブランド鳥を P R していく予定です。」

「『米どころ』の湯川村が、ふるさと納税の返礼品に対応しているのが、村内で栽培されているコシヒカリ。今日は今年の第 1 便、1,300 件分を発送します。今年は、受付期間を 12 月中旬までおよそ 3 カ月延長するなど、寄附の獲得に取り組んでいて、この返礼品を通じて湯川村を発信していきます。」

「会津地方振興局は、『おたねにんじん』の調理方法に新たな視点を取り入れようと、ウェスティンホテル東京の沼尻寿夫総料理長を講師に迎え、地元の飲食店の料理人 8 人に、『おたねにんじん』を使ったラタトゥイユなどの作り方を伝えました。会津地方振興局は『おたねにんじん』を扱う飲食店を増やして、消費拡大につなげようとしていて、今日紹介されたレシピをホームページで公開する予定です。」

県内の三大ブランド地鶏の一つである三島の会津地鶏を他のブランド鶏と組んで情報を発信していこうという取組、米を一般の流通以外にも、ふるさと納税という形で発信している湯川村、江戸時代から栽培されてきた「おたねにんじん」の利用促進を図るための新たなメニュー開発の取組についてのニュースを紹介した。現在、物流、e コマース、ネッ

トショッピング等々の充実で、地元にいながら情報や商品をどんどん送り出していける時代になってきた。情報や商品を通して、会津の魅力に気付いてもらうチャンスが確実に増えている。しかし、同じような取組みは、他の都道府県でも当然やっている。歴史や伝統など商品そのものの力に頼りきって、良いものだから売れるということだけではなく、マスメディアを含めてメディア、SNSなど魅力ある情報発信をしていくことが必要だと思っている。

今言った情報発信の各メディア、Web、SNSの発信力を有効に活用することで会津の魅力をさらに広く知ってもらい、会津を訪れてもらえるよう、私どもを含め、会津の皆さんで一つになって頑張っていきたい。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

「会津はひとつ」という最後の言葉、ありがとうございます。

続いて、福島中央テレビの熊田支社長さんお願いします。

株式会社 福島中央テレビ 会津支社長 熊田 智一 氏

こんにちは私は福島中央テレビの熊田と申します。どうぞよろしく申し上げます。私は福島県郡山市出身で、現在42歳、おそらく今日登壇するマスコミの方の中では最年少だと思う。また、今年の4月に郡山から転勤してきたばかりで、まだ半年、会津初心者であるため、その土地土地の美しい景色、美味しい食べ物、人の暖かさに感動する毎日である。今回私が取り上げる事例は、全線再開通で盛り上がる只見線は地域の宝に違いはないがそちらではなく、会津のもう一つの鉄道「会津鉄道」の動物に関わるものである。

－VTR－

「「にゃん旅鉄道」。「ホームの巡回は大事な任務だにゃん。お客さんの安全は僕が守るにゃん。」ひと仕事終え、お客さんを待つ駅長「らぶ」なのでした。」

弊社福島中央テレビの夕方ワイド「ゴジてれChu！」で2019年4月からスタートした、毎週火曜日のミニコーナー「にゃん旅鉄道」の第1話である。民放公式テレビポータルサイト「TVer（ティーバー）」では、今年9月末時点で累計再生数170万回となっている。会津鉄道芦ノ牧温泉駅に勤務する、ねこ駅長の「らぶ」を主人公に乗客のお出迎えや駅舎の見回りなど、忙しく働く猫の日常を放送している。ちょっとあくびが出ちゃう

ような、「ふにやり。」とした癒しのひと時をお届けしている内容である。その「にゃん旅鉄道」が映画になった。

－V T R（劇場版「にゃん旅鉄道」）－

駅で働く猫たちが教えてくれた大切な絆をテーマに、「春夏秋冬、出発進行！！」というキャッチフレーズで映画化された。主人公は芦ノ牧温泉駅に勤務する猫の三兄弟である。初代のねこ駅長「ばす」から2代目「らぶ」へのバトンリレーをアニメーション用いて表現し、人間の想像を超えるような働く猫たちの絆の物語を描いている。この作品で大切にしたいのが、四季のはっきりと移ろう会津地方の雄大な自然とその風景である。3年間に渡って積み上げてきた映像にアニメーションを加え、ユニークな形で映画化を進めてきた。この映画は2022年夏から福島県内で先行上映をし、今後全国で上映していく計画で進んでいる。では、公開直前7月に作成したV T Rを御覧いただきたい。

－V T R－

僕は一人前になれた？「ゴジてれChu！」の人気コーナーがついに映画化、劇場版「にゃん旅鉄道」の見どころを紹介。舞台は、のどかなローカル線、会津鉄道芦ノ牧温泉駅。ねこ駅長の「らぶ」、弟で施設長の「ぴーち」、妹のアテンダント「さくら」、主人公は実在する駅で働く猫の三兄弟。はなももの季節に天国に旅立った初代ねこ駅長「ばす」との絆を描いた作品です。撮影を担当したのは、写真集「飛び猫」で知られる五十嵐健太さん。「会津若松の季節感を特に意識して撮影したので、会津の魅力を見ていただけたら嬉しいかなと思います。」働く猫たちに声を吹き込むのは、「中テレをご覧の皆さん、南條愛乃です。榎木淳弥です。上坂すみれです。明坂聡美です。」アニメ界を牽引する猫好き声優陣が集まりました。

○榎木淳弥さん（「らぶ」役）

「実際に、「らぶ」に僕も会わせていただいて、その穏やかな姿から役作りをさせていただいて、「らぶ」の役に恥じないような声になっていたらと思います。」

○南條愛乃さん（「ぴーち」役）

「すごい優しい猫ちゃんなのだろうなと思いながら演じたので、私自身もすごく癒されました。」

○主題歌を担当するのは、猫6匹と暮らす大黒摩季さん。

「純粹に、ピュアに、スイートに一生懸命頑張っている姿を見て、皆さん心洗われたり、勇気や希望をもらったり。まずは感動して、その後、ハートを柔らかくしていただければと思います。」

働く猫たちが教えてくれた大切な絆の物語。劇場版「にゃん旅鉄道」は22日公開です。

御覧くださった方はいるでしょうか。全国の猫好き、鉄道好き、アニメファンに向け、福島、会津の魅力を伝えて地域を元気にしたいという思いで制作を進めてきた。声優は日本のアニメ界を引っ張る一流の声優陣。南條愛乃さん、呪術廻戦の主人公榎木淳弥さん、上坂すみれさん、明坂聡美さん。SNSの総フォロワー数は4人合わせて200万人を超えている。主題歌は国民的歌手の大黒摩季さんに担当していただいた。アフレコの時、声優陣に作中の会津の風景はどうかというインタビューをした。「すごく綺麗だなと思った。冬は雪が降り、春は桜もきれいで、四季がはっきりと感じられるところだなという印象を受けた。」4人ともが会津の四季折々の景色がはっきりしていて本当に素晴らしい、と言ってくれました。

この劇場版では、会津の魅力を発信していろいろな展開も行っている。上映した映画館では、予想以上に多くの方に行列を作ってまで見ていただいた。「らぶ」駅長だが、今年の8月から慢性腎臓病の療養を続けていたが、病態が急変し、10月5日に永眠した。御冥福をお祈りしたい。暗い話題が多かった世の中に、元気と癒しの時間を届けてくれたこと、心から感謝したいと思っている。SNSにも感想が届いている。いずれも会津の美しい景色が素晴らしいという感想を投稿いただいている。PRになるが、11月4日から全国22カ所のイオンシネマで公開が決まっている。

まとめになるが、私がこの「にゃん旅鉄道」の事業を通じて感じた会津の魅力だが、何と言っても四季折々の風景、春の花、夏の緑、秋の紅葉、冬の雪、本当に四季がはっきりしていて美しいということ。観光資源に満ち溢れているということ。会津が太古の昔からの仏教文化や武家文化で東北地方の一大中心地だったという歴史と、豊かな自然。山、水がきれいで川・湖がとにかく美しい。それから今回取り上げた鉄道だが、JR磐越西線・只見線、会津鉄道と3つの美しい鉄道が走っていて、そこに暮らす人間とさらに動物と、たくさんの魅力がある。3つ目は何と言っても地域資源を磨く人の情熱。皆さん愛情を持っている。地域の宝を愛情を持って大切に守り続ける住民の努力が感じられる。この3

つ、並べるとキャッチーですけど「天、地、人」、大きな魅力だと思っている。さらに中テレでは、僕も地域の魅力を発信し、地域を元気にするお手伝いをしていきたいと思う。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

続いて、福島放送さんからお願いしたい。福島放送の大槻記者をお願いします。

株式会社 福島放送 報道部 記者 大槻 忍 氏

皆さんこんにちは、KFB福島放送の大槻と申します。

出身は福島市で3年半ほど前から会津若松に赴任し、報道の記者とし、会津地方のニュースを中心に取材活動をしている。現場でカメラを前にして取材先のレポートすることは多いが、このように多くの実際の人前で喋ることが、あまり無いので緊張している。

今日は、まず8月にKFBの情報番組「シェア」で放送したニュースの特集をご覧いただこうと思っている。今年の7月29日、2011年の新潟福島豪雨からちょうど11年の日にあたる日に取材をした。金山町で当時被災した旅館の話である。只見線の試運転もちょうど始まったタイミングだったが、その只見線の再開を心待ちにしていた旅館の女将の話である。

－VTR－

県内では11年前のこの時期に、会津の只見川沿いで大きな被害が出た新潟福島豪雨を経験しています。当時被害を受けた温泉旅館は、今ようやくかつての日常を取り戻そうとしていました。エメラルドグリーンに輝く只見川、穏やかに流れるこの川が11年前突然牙をむきました。2011年7月の新潟・福島豪雨です。堤防の決壊や土砂災害が数多く発生し、死者行方不明者の数は合わせて6人に上りました。「川の様子は水を巻きながら、盛り上がるような感じで流れていました。流れが強いままでいくのかなと思っていたのですが、それがずっと上がってくるというのは、考えにも及ばなかったですね。」金山町の吉野美喜子さん、只見川沿いにある旅館鶴亀荘の女将さんです。「ここの坂道のちょうどここまで、ここに土の線が付いていました。」当時川の水嵩が10m以上も上がり、旅館も水に浸りました。「水に浸ったのはここ辺までだってわかりますよね。」1階の物置は床から1.5mほどの高さまで浸水、大型の冷蔵庫も倒れました。傷跡は11年経った今も残っています。「いくら拭いても取れない。この白っぽくなっているのはその時の土なんです、板の目に入って取れない。」10年以上経ってから、水に浸かった壁が剥がれ始めました。

「町道が、泥がたまってスリップする。夏だから、スコップでかいたら、雪だとすんなりいくが、土だからすんなりいかない。こんなに重いのだと思いながら1日やってもまだ残って、2日目やってもまだ残って、4日目かな。そのぐらいかかりました。31日には避難解除になったので、泥かきと片付け、家の地下をやりました。」客室に被害はなく、水害から1週間ほどで営業を再開しました。「心配だから行きたいというお客さんからの連絡もあり、御予約いただいていたお客様から、行くからねっていうような形で、行っても大丈夫かって、そういう激励と心配のお電話、連絡があって、営業再開に向かえたと思います。」しかし旅館の前の景色は一面、茶色に変わっていました。「見たくないっていう表現をしては、私がそういうことを言っはいけないのかもしれませんが、ここから緑になるんだろうかなーって思うぐらいにもう茶色でした。でも、雪が降って、雪化粧っていうんでしょうかね、真っ白になった時に初めて、ああこれが雪化粧なんだって思いました。真っ白になりましたからね。」「ここから、只見線を見るとすごいいいんですよね。」川の向こう側にあるのはJR只見線の線路です。新潟・福島豪雨災害を受けて、運行が止まっていた会津川口と只見の間は10月1日の再開が決まりました。先月20日からは試運転が行われています。「こんな風にして、メモして追っかけてます。」試運転のスケジュールは公表されていないので、旅館の前を通った時刻を記録しています。「お客様に御案内するように、本名でお迎えになるので、わざわざ本名駅の名前が入った写真を撮るのに、本名駅まで行って撮ってきたこともあります。時間に合わせて走って行って。」旅館の窓から試運転の車両を見るのが日課になりました。「あー来るかな？」この日は残念ながら列車を見ることはできませんでした。吉野さんのように運転再開を心待ちにするお客様も多く、10月の宿泊予約はコロナ前より3割近く増えました。「生き返った、今まで聞こえなかった警笛が聞こえると、戻ったのかなって、でもそれまでの間がすごく長かった。電車を利用してくださる方がたくさんいることを本当に心から思います。只見線みたいな乗車率の低い電車、路線は守られていかないと思います。だからみんなで守っていかないといけないと思います。」旅館の対岸では、堤防の整備が進んでいました。緑豊かな川岸をコンクリートが少しずつその距離を伸ばしています。「この災害は同じようなものは絶対はないことを祈っています。それからこの景色に慣れていくというのが、今までとまた違った景色ですけど、好きになれそうな感じがします。」

8月に放送した ニュースの特集をご覧いただいた。旅館の目の前では、護岸工事が進み、日中は今でも重機の音が響いている。こちらの画面でも、堤防がだんだん距離を伸ば

していた。本来景観としては、こういったものが無い方が綺麗だが、あれだけの災害を受けて、変わっていく風景を受け入れていくと言った女将の言葉が非常に印象に残った。この只見線だが、試運転のスケジュールがJRから公表されていなかったもので、カレンダーにこのように「11時48分川口行きが通った」と毎日目の前を通る時間を書き記し、その度に列車を見ていたそうである。10月1日に只見線が全線再開して、この旅館も今月一杯ほぼ満室の状態が続いているそうだ。夕方6時40分頃に、ちょうど旅館の前を通る夜汽車の列車が見えるそうだ。その時間になると、電気を消して、これから列車通りますよというふうに、お客さんに案内をしているそうだ。女将さんは、また只見線に乗ってみたいと思えるような、そんな只見線にしていきたいと話していた。こうした住民の方々の思いをこれからも紹介していきたいと思っている。私も実は、先日只見線に乗ってきた。10月23日の日曜日だが、朝6時8分に会津若松を出発する列車である。第一只見川橋梁から見た風景、生憎の天気だったが、逆に幻想的な風景と言うか、川面に霧がそのまま鏡のように映る景色を見ることができる。

会津川口駅では乗客の皆さんがホームに降りて、列車の写真を撮られる方が非常に多かった。豪雨の時に流された第七只見川橋梁、こちらからは綺麗な紅葉を見ることができた。沿線には、このように「おかえり」という横断幕がいろいろなところにあった。これは只見駅の前だが、人がいっぱい並んでいるなどと思ったら、人ではなくて、実はかかし。ここにも「おかえり只見線」という横断幕があった。この時列車の車内がどうなっていたかと言うと、これは運賃表示だが、「ただいま只見」と書いてある。おそらく、今只見駅にいるという意味であろうけれども、沿線の「おかえり」という声に合わせて答えたようであり、思わずシャッターを切った。只見駅の待合室は乗客でごった返す状況であり、こうした状況は我々も報道し、沿線の自治体の皆さんからも、当日何とかしてほしいという声がたくさん上がっていた。今日から土曜祝日増便や列車を増やすといった対応が取られることになった。再開通当日10月1日は登り列車に一部トラブルがあったが、逆にそれが只見線らしいとか、11年も待ったからこの何時間ぐらい何てことないよ、そんな声がお客さんから多くあった。沿線住民の皆さん、只見線を利用する方々の思い、こういったことを今後の引き続き報道していきたいと考えている。ありがとうございました。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

ありがとうございました。それでは、最後のプレゼンになります。テレビュー福島さん、八代支社長さんよろしくお願ひします。

テレビユー福島の八代と申します。本日はよろしく申し上げます。

まずは、映像を見てほしい。5分40秒ほど映像を作ってきたので、ご覧いただきたい。

－VTR－（映像と音楽のみ）

今ご覧いただいた映像に関しては、順番も全く意味のない、ただの映像の羅列じゃないかと言われるとそれまでだが、私も生まれは会津若松である。地元の間人は自分のところの良さをあまりわかっていないと言われるケースも多々あるが、私が県内の知人と話をすると、やっぱり会津は、食べ物やお米が美味しいとか、酒処だとか、やっぱお蕎麦だよねとか、居酒屋さんのレベルが高いねとか、色々お褒めの言葉をいただくことが多い。冷静に考えると、そういったところは、日本中他にもあるとも思う。私の会社から、主要映像を持ってきて繋いだのだが、感動する景色やものがそこにあって、そこには非常に大事な物語がまだまだ眠っているのではないかと思う。それを探ることができるというのが一つ会津の大きな魅力ではないかと思っている。非常に抽象的な言い方かもしれないが、今見ていただいた映像は本当に有名どころばかりだが、御覧になる方によっては、久々に見た映像・画面ということもあるかと思う。私が会社のアーカイブ映像から会津の魅力、良いところという意味合いで探し出して、引っ張り出してきたのだが、この映像を探すのに5時間ぐらいかかった。もっとたくさん映像があった。今回YouTubeに載せるということで、人の映っているところは極力出さないようにした。例えば、景色など本当に良い映像がいっぱいある。それは、その土地そのエリアだけが持っている大事な財産であり宝物でもある。そういうものに光を当てて放送につなげていくというのも、私どもの大きな役目だと思っている。とりあえず今日の映像を見ていただいた。皆さんは今の映像を見てどういうふうにお考えになったでしょうか。以上です。ありがとうございました。

福島県会津地方振興局長 高野 武彦

本当にありがとうございました。プレゼン第1部はこれで終了である。時間が許せば、私も間にいろいろコメントを入れながら進めたかったが。皆さん尺をきちっと守っていただきありがとうございました。